

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校	平成8年3月4日	富田 博之	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士															
工業	工業 専門課程	コンピュータシステム科	平成19年文部科学省 告示第21号	-															
学科の目的	コンピュータのスペシャリストとしてIT時代をリードする人材となるために、プログラムの基礎から応用まで幅広く学習し、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるコンピュータエンジニアを目指す。																		
認定年月日	平成27年2月17日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1716時間	944時間	772時間	0時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
60名	40名	1名	2名	8名	10名														
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日まで ■後期: 9月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価														
長期休み	■夏季: 8月 1日~8月31日 ■冬季: 12月23日~1月 8日 ■春季: 3月 1日~3月15日			卒業・進級 条件	ア. 指定科目すべての修得 イ. 学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア等 ■サークル活動: 有														
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) CTCシステムマネジメント株式会社など IT業界 ■就職指導内容 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、相談を行っている。 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 15 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和 元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>15人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術謝試験</td> <td>②</td> <td>8人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	15人	9人	応用情報技術謝試験	②	8人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	15人	9人																
応用情報技術謝試験	②	8人	3人																
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 令和元年5月1日時点において、在学者33名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者30名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職や起業) ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。 学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。			■中退率 9.1 %															
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 4人																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																		
当該学科の ホームページ URL	http://www.asojuku.ac.jp/abkc/subject/cs/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。また、本校では専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、就職先企業に対しお客様アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。委員会では、以下に示す事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

教育課程編成委員会の意見は、主任等が主宰する各学科または各系のカリキュラム会議において検討し、カリキュラムの改善(授業科目の新設・改編や、授業方法の改善・工夫)などに行ける限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中川 茂俊	産業経済局企業立地支援部 企業立地支援課 情報・通信産業担当課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	①
小峰 正仁	(株)メンバーズ 常務執行役員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	③
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	令和元年10月1日～ 令和2年9月30日(1年)	③
毛利 俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長代行補佐	令和元年10月1日～ 令和2年9月30日(1年)	
中西 伸二	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 システム系リーダー	令和元年10月1日～ 令和2年9月30日(1年)	
新納 美佳	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)年2回 6月・11月

(開催日時)

第1回 令和元年6月19日(水) 全体会 17:40 - 18:00 分科会 19:10 - 20:00

第2回 令和元年11月6日(水) 全体会 17:30 - 17:40 分科会 18:30 - 19:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和元年度、教育課程編成委員会において、企業の方より、最新技術関連の授業を増やしてはどうかとの意見を頂いた。対策として、以下のように次年度の取り組みを行う事にした。

- ・ベースとしてC言語、Java、VisualC#などの企業ニーズの高い技術を軸にカリキュラムを構成する。
- ・業界動向をリサーチしながら、最新の技術を授業内容に取り入れていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術(特にwebプログラミングに関わる最新の技術)を学ぶ授業を、企業との連携により計画、実施していく。企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とすることにより、狭い意味での技術だけではなく、企業における開発手法や、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ばせる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

最新技術とともに、企業における開発手法、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ぶことを目的とした科目と

なるよう、企業から派遣される講師と本校教員が、全授業開始前に授業内容、授業方法、評価方法などについて数回の打ち合わせを行い、シラバス(授業計画)を合同で作成する。

実際の授業は本校教員が主となって行うが、企業から派遣される講師にも適宜入っていただく。進捗や学生の状況については、企業から派遣される講師と本校教員の間で話し合い意見交換しながら進めていく。

また、評価についても、出来上がった作品の技術だけを問うのではなく、開発の過程や取り組み姿勢も評価できるような評価基準を企業と連携して設定する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アプリケーション開発 I	Webサーバーおよびデータベースサーバーの構築とフレームワークによるWebアプリケーションの構築を行う。	株式会社メンバーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

システムエンジニア科においては、IT業界において必要とされる、実践的かつ専門的な能力を育成するために必要な知識、技術、技能などについて実施される、職能団体や企業が実施する研修やセミナー等に、積極的に教員を参加させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 AWS Academy Educator Training 」(連携企業等: AWS)

期間: 令和元年7月30日(火)～令和元年8月2日(金) 対象: 教員1名

内容: AWSの各サービスの詳細の講義および実機を使用した演習

クラウドのシステム構築に関するグループワーク

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 発達障害の方との関わり方 」(連携企業等: D-career 北九州オフィス)

期間: 令和元年10月25日(金) 対象: 教員1名

内容: 発達障害の方との関わり方について、北九州カウンセリングルーム、セミナー。障害が原因で居場所がないと感じている学生、学生の支援に行き詰った先生へのアドバイス、指導法など。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 LinuC(リナック)レベル1 Version10.0 技術解説セミナー 」(連携企業等: LPI Japan)

期間: 令和2年9月26日(土) 対象: 教員1名

内容: Linux技術者認定資格「LinuC」取得に向けた技術解説セミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コーチング基礎」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)

期間：令和2年8月 対象：教員1名

内容：コーチングのスタンス、効果、カウンセリングとの違いを知り、基本の対応の流れを体験する。

研修名「コーチング実践」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)

期間：令和2年9月 対象：教員1名

内容：学校における学生との対応事例を使い、コーチング手法を実践する。

研修名「相手も自分も活かす、個別対応強化研修」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)

期間：令和2年9月 対象：教員1名

内容：人との関わり方や考え方による4つのタイプを知り、タイプ毎の対応方法を知る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員からは、リメディアル教育の実情についてご意見をいただいた。コンピュータシステム科は修業年限が2年と短く、国家試験取得のチャンスも限られている。また、就職活動においては一般教養(SPI)が足枷になることも多く、それらの対策として補講やeラーニングに取り組む体制を整える必要がある。また、到達目標の設定とその達成のためのスケジュールを明確にすることで、学生自身の取り組みを促し、能動的な学習意識を高めるような運営を行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
堀 修	福岡県立小倉商業高等学校 校長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	高校関係者
清水 佳代子	システムエンジニア科3年生の保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	PTA
安部 久美子	地域住民代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生
小峰 正仁	(株)メンバーズ 常務執行役員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
上田 浩二	株式会社サークル・オブ・フレンズ 代表取締役	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業等委員
伊藤 洋平	(株)パソナ安川ビジネススタッフ 小倉支店 営業企画課長	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 [ホームページ]・広報誌等の刊行物・その他())
<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2019/hyoka.pdf>
 公表時期:令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念(育成人材像)、教育目標、ASOの考え方、5つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	教育力向上の取り組み、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)、高等教育の修学支援制度(高等教育無償化)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 [ホームページ]・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 コンピュータシステム科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎理論	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ	1前	46		○			○			○	
○			アルゴリズム I	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ	1前	76		○			○			○	
○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験取得にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ	1前	46		○			○		○		
○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験取得にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ	1前	60		○			○		○		
○			データベース	基本情報技術者試験取得にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ	1前	46		○			○		○		
○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ	1前	30		○			○		○		
○			アルゴリズム II	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする	1後	76		○			○			○	
○			テクノロジー技術	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ	1後	90		○			○		○		
○			C言語 I	C言語について、文法と基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			C言語 II	C言語について、応用知識を学びプログラムが組めるようになる	1後	76			○		○			○	
○			情報処理試験講座 I (春向)	2年生の春受験の国家試験対策授業	1後	60		○			○		○	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理試験特別講座Ⅱ(春向)	2年生の春受験の国家試験対策、直前授業	2前	76		○			○		○	○	
○			情報処理試験講座Ⅱ(秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策授業	2前	30		○			○		○	○	
○			情報処理試験特別講座(秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	2後	60		○			○		○	○	
○			情報処理活用Ⅰ	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ	1前	30			○		○				○
○			情報処理活用Ⅱ	Excelの関数やグラフ機能など、応用知識を学ぶ	1後	30			○		○				○
○			データベース演習	Accessの操作方法を学ぶ	2後	16			○		○				○
○			実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ	2前	16			○		○				○
○			ExcelVBA	ExcelVBAについて学ぶ	2後	16			○		○				○
○			C言語演習	C言語のプログラミング実習を行い、実際にプログラムを作成し、知識を深める	1後	30			○		○				○
○			Oracle SQL I	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	1後	30			○		○				○
○			Oracle SQL II	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	2前	30			○		○				○
○			Visual C# I	Microsoft社のVisualStudioから、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ	2前	60			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Visual C# II	Microsoft社のVisualStudioから、C#のプログラミングをより深く学ぶ	2後	30			○		○		○		
○			Webデザイン基礎	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ	2前	60			○		○		○		
○			Webデザイン制作演習	JavaScriptやJquery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ	2後	60			○		○		○	○	
○			Java基礎	Javaの文法やオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1後	46			○		○		○		
○			Javaプログラミング	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでプログラミングを学ぶ	2前	46			○		○		○		
○			Java応用	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでシステムを開発してみる	2後	46			○		○		○		
○			アプリケーション開発 I	さまざまなアプリケーション開発技法を学ぶ	2後	30			○		○		○	○	○
○			一般教養 I	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	1後	16			○		○			○	
○			一般教養 II A	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2前	16			○		○			○	
○			一般教養 II B	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2後	16			○		○			○	
○			ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ	1後	16			○		○			○	
○			文章表現	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	2前	16			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			GCB I	グローバルシチズンベーシック I (感謝心と思いやり) について学ぶ	1後	16		○			○		○		
○			GCB II	グローバルシチズンベーシック II (志をたてる) について学ぶ	2前	16		○			○		○		
○			就職実務 I	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	1後	30		○			○		○		
○			就職実務 II	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	2前	46		○			○		○		
○			卒業研究 I	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品(システム)を設計、構築していくことを学ぶ	2後	30			○		○		○		
○			卒業研究 II	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品(システム)を設計、構築していくことを学ぶ	3後	90			○		○		○		
合計					41科目		1716単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たせない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週